St. Luke's International University Repository

聖路加看護大学年報: 2008年度（平成20年度）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2010-01-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/4728

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

X　大学史編纂・資料室

大学におけるアーカイブ事業の重要性に鑑み、本学は、2006年度に大学史編纂･資料室検討委員会（図書委員会委員が兼任）を発足させ、１年半の検討と活動を経て「大学史編纂･資料室の事業のあり方についての提案」を学事協議会および教授会に提出した。それを受けて、2008年４月には大学史編纂･資料室が設置され、渡部尚子客員教授（1962年卒）が室長に就任した。また、大学史編纂･資料室の諸事業を審議し、運営等を支援する委員会として大学史編纂･資料室委員会（大学史編纂･資料室検討委員会を改変）が置かれた。

大学史編纂･資料室に関連した組織・施設・規則は以下のとおりである。

大学史編纂･資料室の組織上の位置づけ：学長直轄

場　　所：本館６階608号室

職　　員：室長１名（客員教授）、職員１名（図書館員兼務）、臨時職員１名（同窓生）

諮問機関：大学史編纂･資料室委員会（委員：教員５名、同窓生３名、職員３名）

関連規則：聖路加看護大学大学史編纂･資料室委員会規程（2009年度、学事協議会および教授会承認まち）

個人情報保護方針

2008年度における大学史編纂･資料室の活動について、以下に報告する。

１．大学史編纂･資料室業務

１）オーラルヒストリーの聞き取り

⑴　個人インタビュー

2008年度のインタビューを開始するにあたり、多様な背景をもつ対象者をより広く、また公平に選出するため下記の申し合わせを行った。

対象者については、①地方や外国で活躍した人、②外国人卒業生（戦前）、③看護以外の分野（福祉・団体・国際援助等）でも活躍・貢献した人を、またその選出は、①全国都道府県看護協会および②同窓会クラス委員（聖路加女子専門学校1945年～1956年卒）に依頼することとした。

その結果、都道府県看護協会から４名、クラス委員から28名、大学史編纂･資料室委員会から11名、計42名がリストされた。年度内に実施可能な人数を考慮して13名に協力を依頼し８名から承諾が得られた。そのうち、下記６名の方にインタビューを行った。

日比野路子（1941年卒、５月19日）、井上幸子（1945年卒、６月21日）、小池明子（1941年卒、８月８日）、藤門政子（1937年卒、10月22日）、高橋百合子（1939年卒、10月29日）、金子房代（1934年卒、11月24日）

⑵　フォーカスグループインタビュー（2007年度実施）についてのグループ討議

12月６日、昨年実施したフォーカスグループインタビューの内容について、修正・補足のグループ討議を行った。また、大学史編纂事業への協力・支援を得るため、大学史編纂･資料室

委員会および編纂･資料室から下記テーマについて報告した。

「大学史編纂事業について」：中山和弘（大学史編纂･資料室委員会委員長）

「インタビューの進捗状況について」：渡部尚子（大学史編纂･資料室室長）

「前回のフォーカスグループインタビューのまとめ」：有森直子（大学史編纂･資料室委員会委員）

⑶　インタビューマニュアルの作成

委員間の共通理解を図るため「聖路加看護大学 Interview マニュアル（案）」を作成した。マニュアルは、①Interview 準備から実施･保管･開示のフローチャート、②「個人ファイルボックス」申し合わせ、③逐語録整理申し合わせ、④同意書･履歴書･資料借用書等用紙類の４つから構成されるが、その活用については試行中である。

⑷　インタビューについての今後の課題

過去２年半に13名のインタビューを実施したが、下記２点については次年度以降の課題となった。

①時間･予算･人手等の制約の中で、より多くの対象者を効率的にインタビューする方法の検討

②記憶違い、誤解、略名表現等のある生の逐語録を、正確で迅速に校正･校閲する方法の検討

２）資料収集

今年度、大学史編纂･資料室が収集した資･史料総数は、寄贈52、借用26の計78点である。その中には、1923年卒河村郁氏の自叙伝（VHS）、1934年卒金子房代氏使用の感染看護プリント（GHQ看護課関係者作成の英文プリント）、1935年卒金子光氏の回想録（DVD-R）、同年卒高橋シュン氏の八ヶ岳農村診療記録（1946年･1947年、自筆記録）等の貴重資料が含まれている。

３）写真パネルの整理

大学に保管してある写真パネル類112枚について､キャプション整理とデータベース化を図った。また、保管･管理面からガラスケース（額縁）入り写真のパネル化の準備とその経費について検討した。

２．広報・普及業務

１）聖路加看護大学ブックレット

自校教育の一環として、また創立90周年記念資料として聖路加看護大学ブックレット（「聖路加看護大学の歩み（仮称）」）の制作を学事協議会および教授会に提案し了承された（2008年７月）。以下、その活動経過を記す。

７月～９月：

教職員を対象にブックレットの内容および体裁についてアンケート実施

９月～10月：

①アンケートをもとに、大学史編纂資料室委員会・学長・学部長・元教員等に、内容についての助言要請

②26項の内容と、執筆者を学内教職員および同窓生にすることを決定

③ブックレットワーキンググループの設置（佐居由美・大森純子・中村綾子・渡部尚子・新沼久美・進藤務）

11月：ワーキンググループおよび大学史編纂･資料室委員会で執筆者の選出。学長・学部長に助言要請。執筆要領作成

12月：執筆者に原稿依頼（文書およびファカルティスタッフミーティングで口頭依頼）

１月～３月：ワーキンググループにおいて、タイトル名・体裁・使用写真・校正枠組・奥付内容・予算・業者選定等検討

２）写真展示

2009年度聖路加同窓会総会、日本看護歴史学会第23回学術集会、創立90周年記念において大学保管の写真パネルを展示することについて検討、その準備に入った。

３）展示室の設置

展示室設置については種々の状況から一時検討を保留していたが、本年２月、2009年度事業計画の中で大学のミッション達成のための教育強化として簡易展示室の設置が示され、その具現化に向けて準備を進めている。その活動は次のとおりである。

⑴　業者との話し合い：内田洋行から展示室に関連しての説明を受け、設計･予算･作業過程等についての相談と案作成の依頼（11月20日、12月12日）

⑵　施設見学：東洋学園大学資料室（本郷および流山校舎）の展示室を視察（12月11日、３月31日）

⑶　展示室の検討：候補場所として図書館前のブラウンジング、ロッカー室、その他学内廊下等を検討

⑷　展示方針の検討：臨時委員会を開催し、展示についての目的･対象者・内容･方法等を話し合った。また、2010年１月の創立90周年での簡易展示を目指し、そのコンセプトと見積依頼条件等を検討した。

４）ホームページの構築

創立90周年事業の一環として、『聖路加看護大学85周年記念誌』をもとに、ホームページを作成する案が出ている。次年度活動に取り上げる予定。

３．渉外活動業務

１）自校教育事業への協力

自校教育の一環として、本学卒業生であり、台湾看護界において指導的役割を果たした鍾信心先生を招聘する計画を立てた。なお、この事業はミセス・セントジョン記念教育基金を得て実施される。

２）研究・学会発表等

⑴　学会発表（日本看護歴史学会第22回学術集会、2008年８月、於九州大学）

テーマ：「聖路加看護大学同窓生による学生生活の変遷～フォーカスグループインタビューによる語りを通して～」：聖路加看護大学大学史編纂・資料室検討委員会（有森直子・中山和弘・内田卿子・岩間節子・菅原文子・田代順子・麻原きよみ・安ヶ平伸枝・松本直子・梶とみ子・進藤務）

⑵　シンポジウム参加（2009年１月24日、於立教大学）

テーマ：「自校教育の到達点と今後の課題」

参加者：田代順子・有森直子・渡部尚子・新沼久美

３）他組織機関との連携

⑴　全国大学史資料協議会への入会および研究会参加

上記協議会に次年度より入会するための手続きをとった（2008年６月）。また、同協議会開催の下記研究会にオブザーバーとして参加した。

・2009年１月22日（於武蔵野美大新宿サテライト）:「日本の建築アーカイブの現状と課題」
参加者：新沼久美

・2009年３月19日（於武蔵野美大新宿サテライト）:「東海大学学園史資料センターにおける資料整理の現状と課題について」
参加者：渡部尚子・新沼久美

⑵　2009年度聖路加同窓会総会における本学写真パネルの展示協力の準備（再掲）

⑶　日本看護歴史学会第23回学術集会開催（2009年８月20･21日）への協力･支援

本学同窓会会長内田卿子氏（大学史編纂･資料室委員会委員）が会長を務める上記学術集会の開催にあたり、大学史編纂･資料室委員会および委員、大学史編纂･資料室が下記の形で協力・支援をすることになった。

①学術集会企画委員会委員：田代順子・有森直子・安ヶ平伸枝・矢ケ崎香・渡部尚子

②研究発表：「高橋シュン記『八ヶ岳農村診療報告』にみる戦直後・八ヶ岳南麓地域における巡回医療活動」（田代順子・有森直子・安ヶ平伸枝・矢ケ崎香・渡部尚子・松本直子・新沼久美・内田卿子）

③聖路加看護大学写真パネルの展示協力（上掲）

４．その他

⑴　研修派遣：「平成20年度　アーカイブズ・カレッジ(資料管理学研修会、６週間)」（大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館主催）に新沼久美大学史編纂･資料室職員が３週間参加。

⑵　大学史編纂･資料事業等の経済的支援：2008年12月、聖路加看護大学への寄付項目に「大学史編纂･自校教育･史料保存展示事業募金」が創設された。寄付金は本事業の人件費・調査費･資料収集費・史料展示経費等へ当てられる。

⑶　規程等の整備：「大学史編纂･資料室規程」・「聖路加看護大学 Interview マニュアル」（上掲）